クボタトラクタ

取扱説明書

KT20・22・24・27・30
安全キャブ仕様

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は，KT20・22・24・27・30安全キャブ仕様機について，特に異なる部分の取扱方法，簡単な点検および手入れについて説明してありますのでその他の説明については，別冊の取扱説明書をご覧ください。(別冊と異なる部分は，必ずこの取扱説明書を優先してご活用ください。)
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について　本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

安全キャブ装備品の取扱い

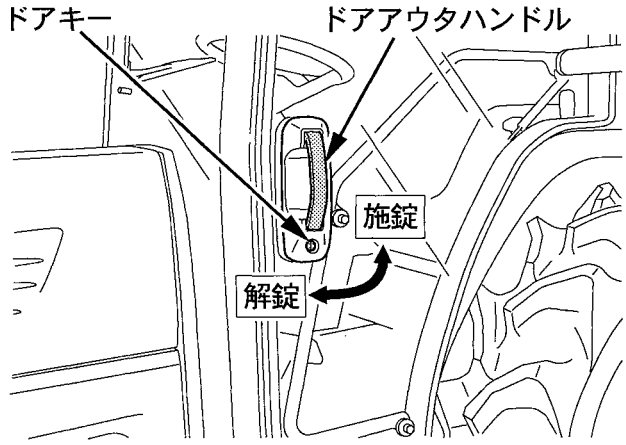
ドア・窓の開閉とロック

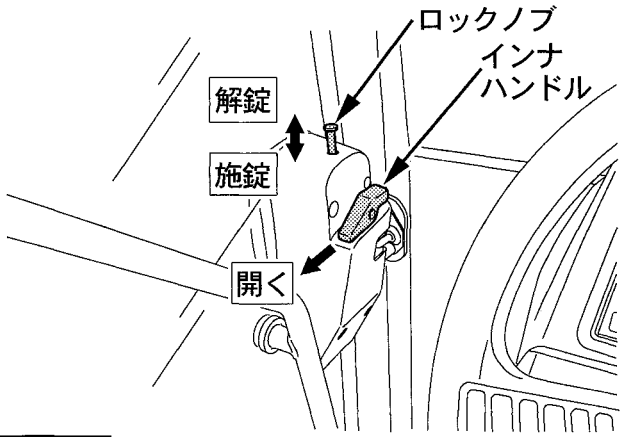
注　意

＊リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドの開閉に注意してください。（開放時頭などを打つおそれがあります。）
＊ガラスを破損させるおそれがありますので安全キャブ内には物を載せないでください。
＊ガラスの取扱いはていねいに行なってください。

■ドア

◆ドアの開閉とロック



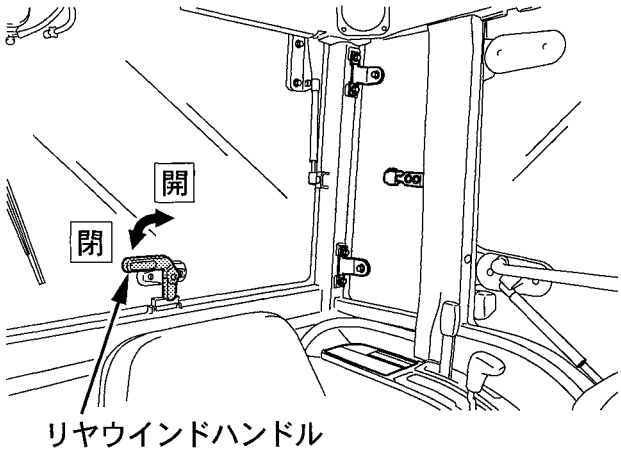


補　足

＊ドアにぶらさがったり，作動範囲以上に無理に押し開かないでください。

■リヤウインド

リヤウインドハンドルを時計方向に回し，そのまま押すと，ダンパの作用で自動的に開きます。

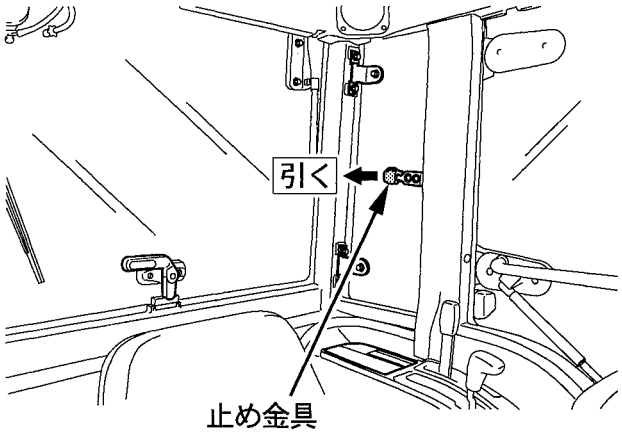


重　要

＊作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので，開閉するときには十分確認して行なってください。
＊リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

■クォータウインド

止め金具を手前に引き，ガラスと共に外側へ押すと開きます。



重　要

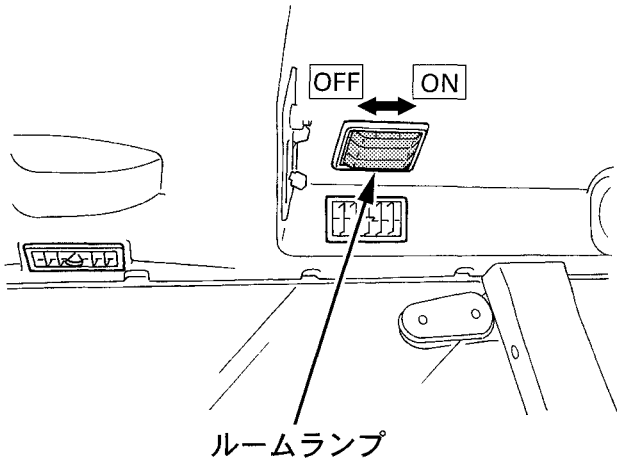
＊クォータウインドを開放したままで，悪路走行をしないでください。

ルームランプ

ルームランプカバーを前後方向にスライドさせることにより，スイッチが作動します。

[OFF]…… ドアの開閉に関係なく，ランプは点灯しません。

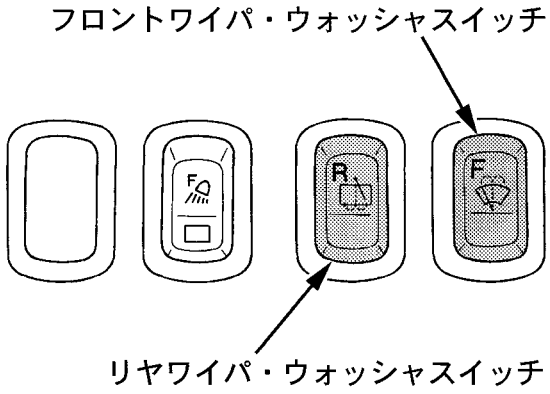
[ON]…… ドアの開閉に関係なく，ランプが点灯します。



ワイパ

■フロントワイパ・ウォッシャスイッチ
■リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

1. スイッチの上側を１段押すとワイパが作動します。
2. さらに２段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
3. スイッチの下側を押すと，押している間のみウォッシャ液が噴射します。
4. スイッチには，ヘッドライトに連動して点灯するイルミネーションランプが内蔵されています。



補　足

＊からぶきはガラスを傷つけることがあります。必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。

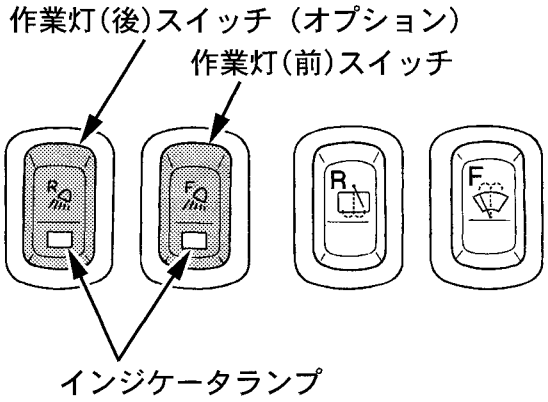
■寒冷時のワイパの使用

寒冷時には，ワイパブレードがガラスと氷着していることがあります。そのままワイパを作動させるとワイパブレード及びワイパモータの故障につながるおそれがありますので，必ずキースイッチを[切]にして氷を取除いてから再度起動させてください。

作業灯

■作業灯スイッチ

作業灯スイッチの上側を押すと作業灯が点灯し，スイッチの下側を押すと消灯します。
またスイッチには，ヘッドライトに連動して点灯するイルミネーションランプと，作業灯の点灯を示すインジケータランプが内蔵されています。



■作業灯（前）

■作業灯（後）（オプション）

重　要

＊バッテリがあがりますので，ヒータ・作業灯・ヘッドライトなど電装品を使用する場合は，エンジン回転を1600回転以上にしてください。

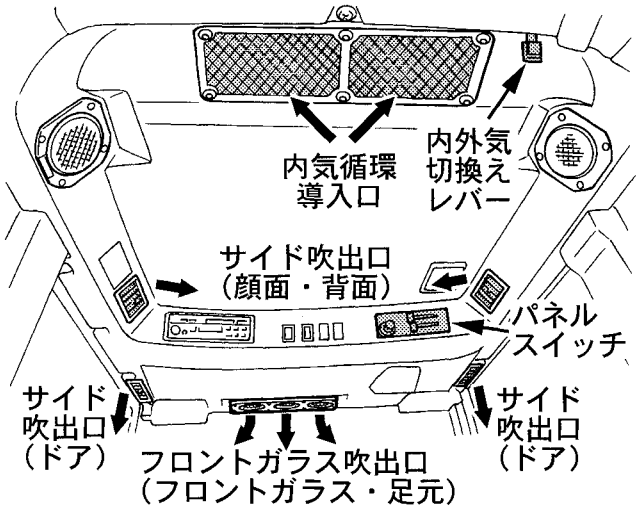
補　足

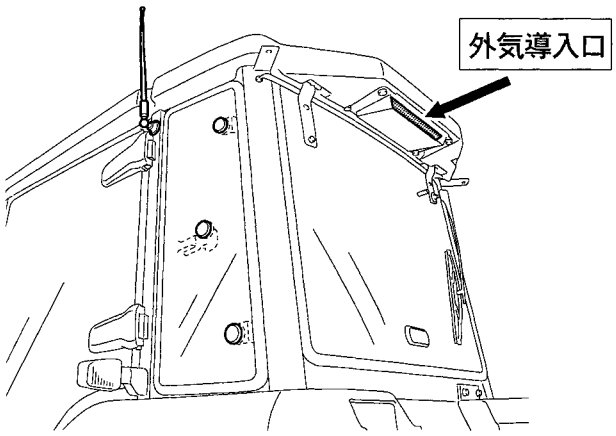
＊作業灯は**[道路運送車両の保安基準]**第42条(灯火の色等の制限)において，**[走行中に使用しない灯火]**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

エアコン

■空気の流れ

安全キャブ内の空気の流れは下図の通りです。
５カ所の吹出口の調節により，最適のコンディションが得られます。

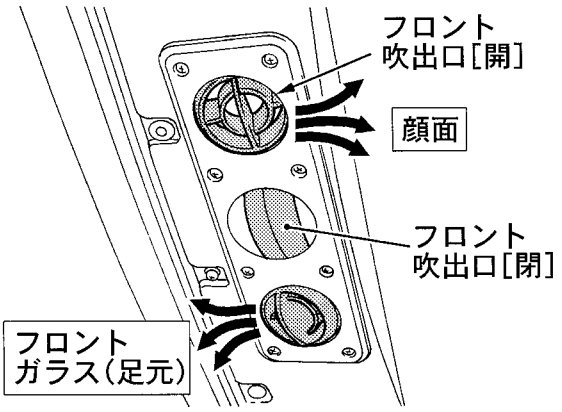




■風向調整

◆フロント吹出口

1. 風の方向は，吹出し口により自由に調整できます。
   デフロスタ(フロントガラスのくもり止め)として使用する場合，吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。
2. サイド吹出口からの風量を増したいときは，**[閉]**にしてください。

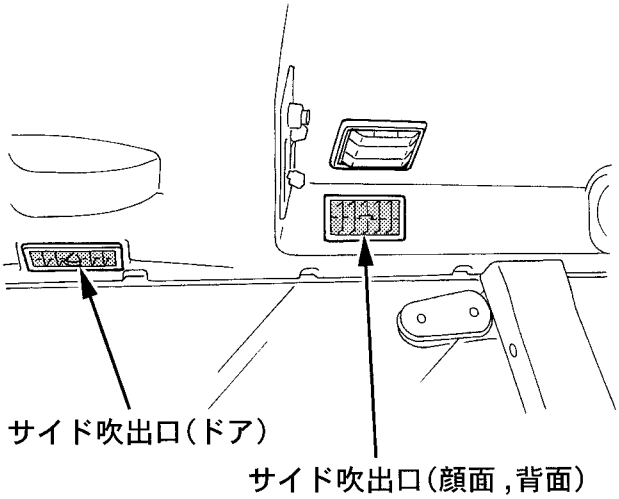


補　足

＊フロント吹出口からの冷風がメータパネルに当たると，メータパネルが曇ることがあります。そのときは，フロント吹出口の向きを変えて，メータパネルに冷風が当たらない様にしてください。

◆サイド吹出口

冷風の方向は，ルーバーの向きにより自由に調整できます。



重　要

＊顔面や背面への風量を増したいときは，ドア用吹出口を**[閉]**にしてください。

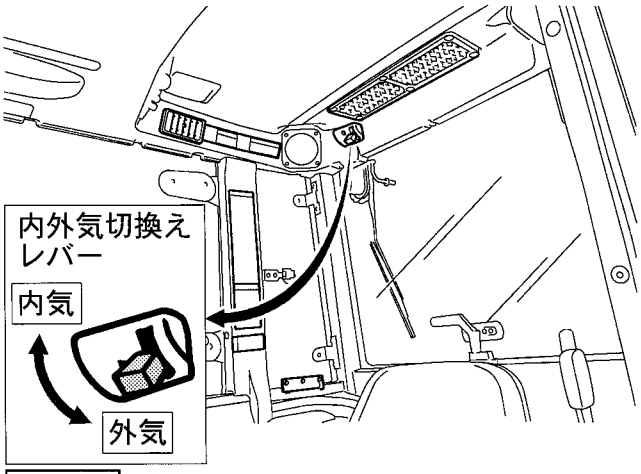
◆内外気切換えレバー

外気導入…レバーを**[外気]**位置にすると，安全キャブ室内に外気が入ってきます。ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用します。

FRESH

内気循環…レバーを**[内気]**位置にすると，外気は入りません。早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。

REC IRC

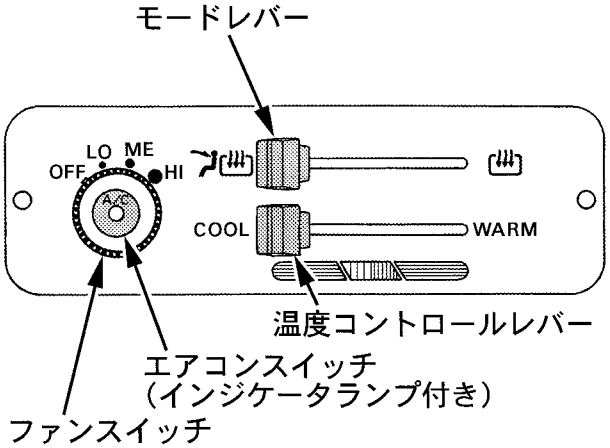


補　足

＊内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。

＊ほこりが多発する作業では，外気導入で使用してください。外気を採り入れることにより室内の圧力が上昇し，安全キャブ室内にほこりが入りにくくなります。

■コントロールパネル



◆モードレバー

フロント吹出口及びサイド吹出口より風が出ます。

フロント吹出口より風が出ます。

エアコン

◆温度コントロールレバー
温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風，左に寄せると冷風が出ます。

◆LO･ME･HIファンスイッチ
風量が３段階に切換えられます。**[HI]**は最も風量の多い位置です。

◆A/C エアコンスイッチ
エアコンを使うときは，このスイッチを押して**[入]**にします。**[入]**のとき，インジケータランプが点灯します。

■取扱い操作方法

◆暖房
1. モードレバーを 又は にします。
2. 内外気切換えレバーを FRESH 外気導入にします。
   早く室温を上げたいときは RECIRC 内気循環にします。
3. ファンスイッチ(**LO・ME・HI**)と温度コントロールレバーを調整し，快適な温度にします。

補　足
＊夏期ヒータを使用しないときは，熱気で室内温度が上昇しないように，温度コントロールレバーを**COOL**(左端)に寄せてください。

◆冷房・除湿暖房
1. モードレバーを にします。
2. 内外気切換えレバーを FRESH 外気導入にします。
3. エアコンスイッチを押し**[入]**にします。
4. ファンスイッチ(**LO・ME・HI**)を作動させます。
5. 温度コントロールレバーを**COOL**又は中間位置に調整し，快適な温度にします。

◆頭寒足熱
冷房・除湿暖房の運転状態で，温度コントロールレバーを中間位置で使用すると，顔が涼しく足元が暖かい（頭寒足熱）快適な状態が得られます。

◆デフロスト
フロントガラスの曇り及び凍結除去するときは，
1. フロント吹出口を開き，フロントガラスの方向に向けます。
2. モードレバーを にします。
3. 内外気切換えレバーを外気導入にします。
4. ファンスイッチを**HI**，温度コントロールレバーを**WARM**(右端)にします。

■ヒータ使用上の注意

注　意

＊ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。
＊異常を認めたとき、修理を怠るとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

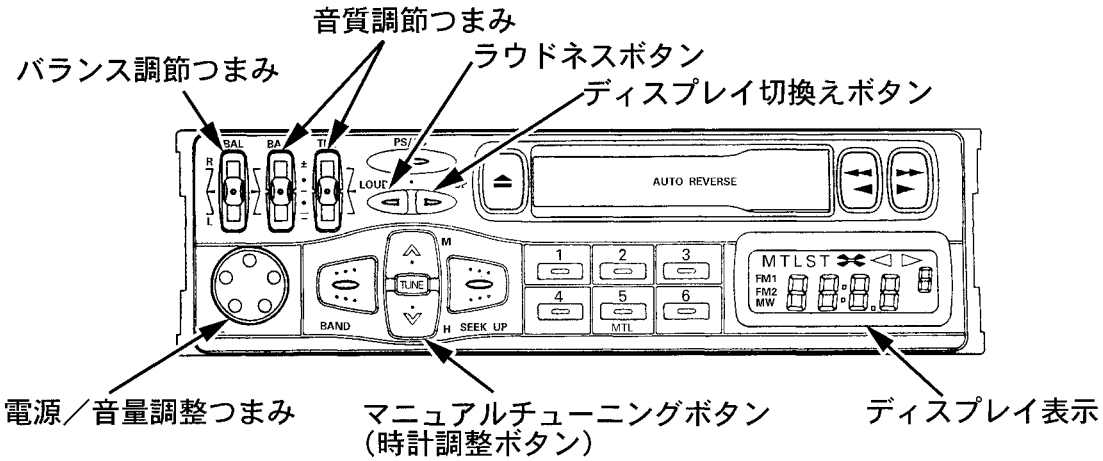
1 .冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
   また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
2. 冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
   (冷却水の排水のしかたは，**[2年ごとの点検・整備]**の**[冷却水の交換]**の項を参照してください。)
3. ウォータホースは２シーズンごとに交換を受けてください。
4. 日常点検
   次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
   （ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。）
＊ ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ，
＊ ウォータホースジョイント部の水漏れ
＊ ウォータホースの保護ブッシュ及びグロメットの外れ，破損
＊ 本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損
5. ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

AM／FMラジオ付カセットプレーヤ

注 意

＊運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。

共通部の操作のしかた



■電源の入／切のしかた，音量調節

◆VOL：電源／音量調節ツマミ

クリック位置よりも時計方向（◯）に回すと電源が[ON]します。

音量調節ツマミを時計方向（◯）に回すと音量が増大します。反時計方向（◯）に回すと音量が減衰します。

クリック位置よりも反時計方向（◯）に回すと電源が[OFF]します。

■左右のバランス調整

◆BAL：バランス調整ツマミ

L表示側につまみをスライドすると左側スピーカの音量が強調されます。(右の音が小さくなります。)

R表示側につまみをスライドすると右側スピーカの音量が強調されます。(左の音が小さくなります。)

■音質調整

◆BASS：低音調整ツマミ

ツマミを＋側にスライドすると低音部が強調され，－側にスライドすると減衰されます。

◆TRE：高音調整ツマミ

ツマミを＋側にスライドすると高音部が強調され，－側にスライドすると減衰されます。

■ラウドネスボタン

小音量で音楽を聞くと，低音が弱く感じます。ラウドネスボタンを押すと低音が強調されて聞きやすい音質になります。解除する時はもう一度ボタンを押してください。

■時計表示のしかた

◆DISPLAY表示切換えボタン

ラジオ受信時にボタンを押すと，時計表示になります。元の表示に戻したいときは，もう一度ボタンを押します。テープ再生中は時計表示。

補 足

＊時計表示中にプリセットボタンなどの操作をすると，周波数表示に切換わります。

■時計の調整のしかた

◆∧TUNE∨時計調整ボタン

❶DISPボタンを押しながら∨ボタン(H側)を押すと，時間表示の調整ができます。

❷DISPボタンを押しながら∧ボタン(M側)を押すと，分表示の調整ができます。

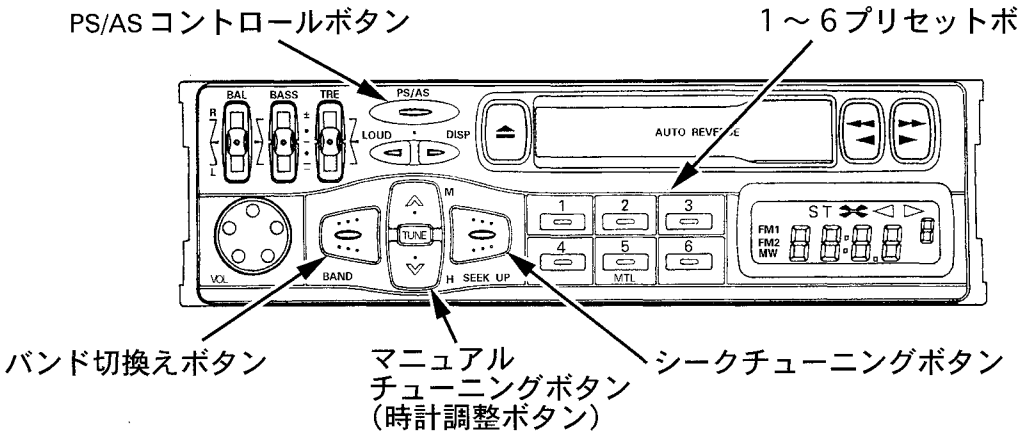
❸DISPボタンを離すと，時計の調整が完了します。

補 足

＊時計の調整は，時刻表示の状態で行なえます。

AM／FMラジオ付カセットプレーヤ

ラジオを聞くには



■バンド切換え

◆BAND：バンド切換えボタン

電源を“ON”にする。

バンド切換えボタンを押すとMW (AM)，FMのバンドが切換えられ，バンドインジケータも同時に表示します。

補　足

＊カセットテープが挿入されている場合，⏏イジェクトボタンを押してテープを取出してください。

■手動選局のしかた

◆マニュアルチューニング（周波数同調）

手動にて選局を行ないます。

上側ボタンを押すと受信周波数が高く，下側を押すと低くなります。

ボタンを押し続けていると早いペースで周波数が変化します。

◆シークチューニング

SEAK UP：シークチューニングボタンを押すと自動的に周波数が高いほうに変化して放送をさがします。

受信可能な放送があると，その周波数で停止して継続受信します。

■プリセット選局のしかた

◆1～6プリセットボタン

オートストアでメモリされた放送周波数を，1～6のボタンで単独に呼び出し，受信することができます。1～6のボタンはFMおよびMW(AM)共用で18局(FM12局，AM6局)の放送をセットできます。

■プリセットスキャン

ラジオ受信中にPS/ASコントロールボタンを押すと現在受信中のバンドにプリセットされている放送局を1番から6番まで5秒間づつ放送します。（その際ボタンを押す時間は2秒以内です。）

お聞きしたい局を受信したところでもう一度このボタンを押してください。プリセットスキャンの作業が終了され通常の放送に切換わります。

■プリセットのしかた

◆マニュアルメモリ

1. バンド切換えボタンを押し，ご希望のバンドに切換えます。
2. ∧ボタン又は∨ボタンで，ご希望の放送局を選局します。
3. 放送局を選局したら，周波数表示中にメモリしたい番号(1～6)を約2秒間押しつづけます。周波数表示が一回フラッシュして登録が終了します。
4. 同じように，別のプリセットしたい放送局は1.～3.の操作を繰り返してください。

◆オートストア

ラジオ受信中にPS/ASコントロールボタンを２秒以上押すと現在受信中のバンド内の放送を自動的に探してその周波数をプリセットメモリに記憶します。

この動作中，表示部の右側のチャンネル表示が変化します。これは各メモリチャンネルに記録中を表わします。

補　足

＊一度プリセットしたボタンをさらにプリセット操作すると，前にメモリされた放送局は解除されます。

＊チャンネル表示がフラッシング中はオートストア機能は使用できません。(フラッシング中はプリセットスキャン中です。)

■ディスプレイ表示

◆バンド表示

MW (AM)，FM1，FM2バンドを表示します。

◆周波数デジタル表示

受信周波数をデジタル表示します。

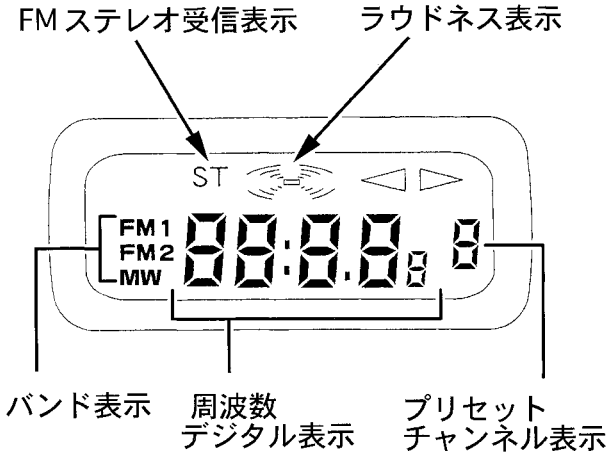
MW (AM)放送受信時はKHz単位で，FM放送受信時は，MHz単位で表示します。

◆プリセットチャンネル表示

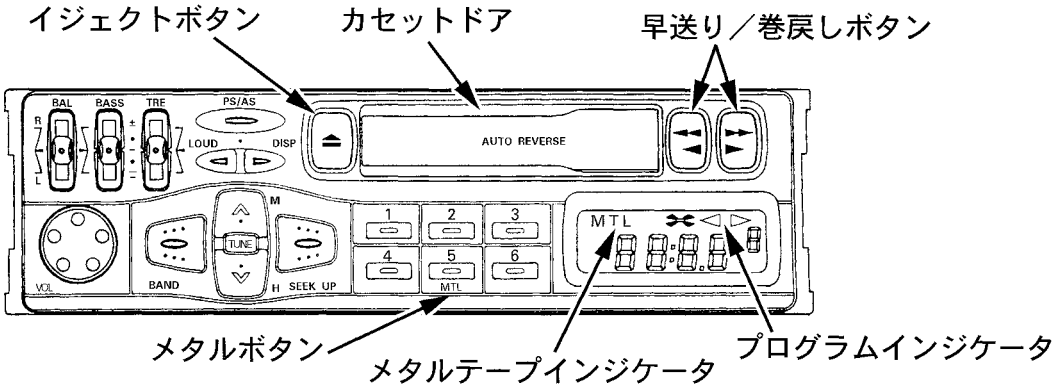
プリセットボタン(１～６)を押すと，そのチャンネルを表示します。

◆FMステレオ受信表示

FMステレオ放送受信時に[ST]の文字を表示します。

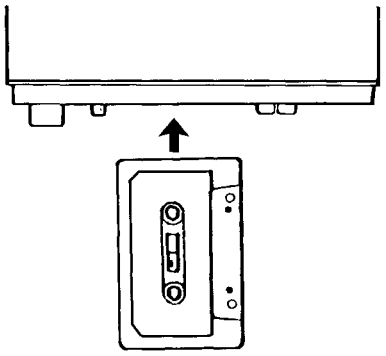


テープを聞くには



■カセットテープの挿入

カセットテープのテープ面を右側にし，聞きたい面を上側にして挿入します。
挿入されると同時に演奏を開始します。このとき，プログラムインジケータは[▶]又は[◀]が点灯します。



F-6625

■演奏面の切換え

◆早送り／巻戻しボタン

演奏面を変えるときは,2つのボタンを同時に押してください。演奏面が変わると同時にテープ走行表示の点灯もかわります。本機はオートリバースメカを使用していますので,テープ再生あるいは早巻取りでテープが終端まで巻取られると,自動的にテープ走行が変わり,反対面のプログラムが再生されます。
テープをいれたままにしておきますとA面B面を繰り返し演奏を続けます。

■巻戻し，早送り

◆巻戻し

テープ走行方向表示が点灯している方の矢印と逆方向のボタンをロックするまで押します。

◆早送り

テープ走行方向表示が点灯している方の矢印と同じ方向のボタンをロックするまで押します。

補　足

＊巻戻し・早送りを途中で中止するときは◀◀▶▶ボタンの押した方のボタンの隣（逆方向）のボタンを軽く押してください。

■カセットテープの取出し

◆⏏イジェクトボタン

⏏イジェクトボタンを押すと，カセットテープが取出され，下記のように切換わります。

ラジオ受信 → テープ挿入 (テープ再生) → イジェクト ボタン押す → テープ取出し ラジオ受信

補　足

＊カセットテープを聞かないときは，必ず⏏イジェクトボタンを押してテープを取出してください。

■メタルテープの切換え

◆MTL：メタルボタン（プリセットボタン５番と共通です。）

使用するテープの種類によって使い分けてください。

メタル／クロームテープ使用時は，ボタンを押してください。表示部にMTLが表示されます。

解除する時はもう一度ボタンを押してください。

補　足

ノーマルテープ	テープに120μsと書いてあります
メタルテープ， ハイポジションテープ	テープに70μsと書いてあります

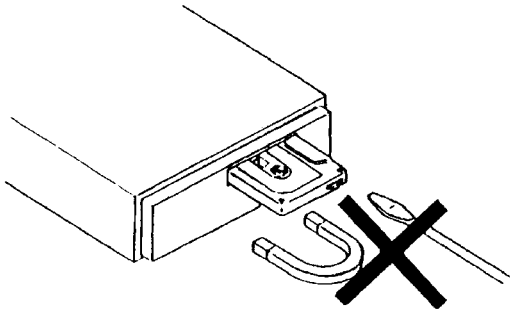
■故障・修理の問合せ

このAM/FMラジオ付カセットプレーヤが故障した場合，下記メーカにご相談ください。

エスペリア株式会社
〒350-0833　埼玉県川越市芳野台2-8-85
（川越工業団地）
TEL 049-226-9120　FAX 049-226-9136

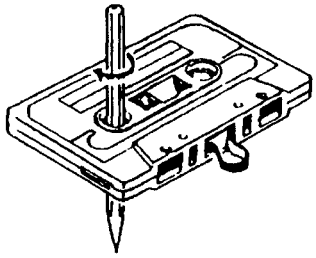
取扱い上の注意

1. 本機は，水分や高温，多湿を嫌いますので，車内清掃や換気に十分ご注意ください。
2. ヘッド及びカセットテープに，磁石やドライバなどを絶対に近づけないでください。



F-6627

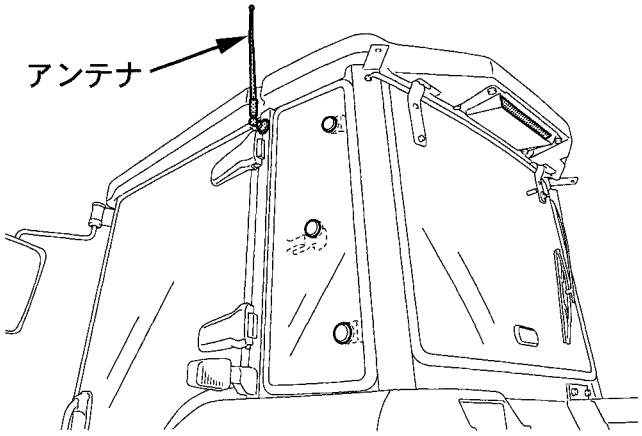
3. カセットテープ挿入時にテープがゆるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので，テープのゆるみを直してからご使用ください。



F-6626

4. カセットテープは，水平にし，カセットテープの中央を押して挿入してください。
5. C-120タイプのカセットテープは，テープ自身が非常に薄く，伸びたり，切れたりしますので，ご使用は避けてください。
6. ラベルのはがれかかったカセットテープ，またケースが変形しているカセットテープは，メカニズムの故障の原因となりますので，ご使用は避けてください。
7. ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音でお聞きいただくため，ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニングテープを使用すると便利です。なお，クリーニングにはシンナやベンジンは絶対に使用しないでください。
8. 車内の温度に気をつけてください。
   極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，適温で使用してください。また，車を降りられるときには，必ずカセットテープを本体から抜いてケースに入れて保管してください。
9. 本機操作は，安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また，運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
10. 本機のお手入れは，乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは全体に使用しないでください。また，汚れがひどい場合には柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し，軽く拭取ってください。
11. カセットテープを直射日光に長時間あてないでください。高音，多湿の場所(ダッシュボード上やシートの上)への長時間放置もさけてください。

■アンテナ



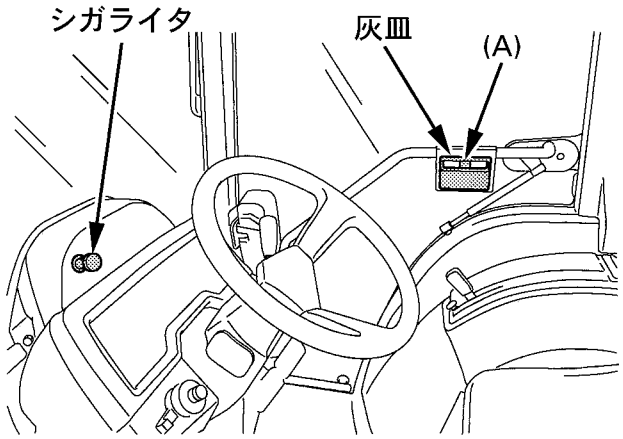
重 要

＊アンテナは角度調節できませんので動かさないでください。

灰皿

■シガライタ

シガライタはキースイッチが**[入]**のときに，使用できます。



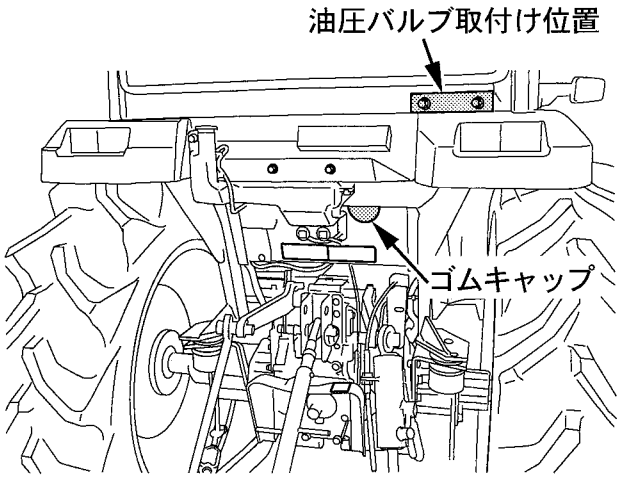
◆アッシュトレイ（灰皿）

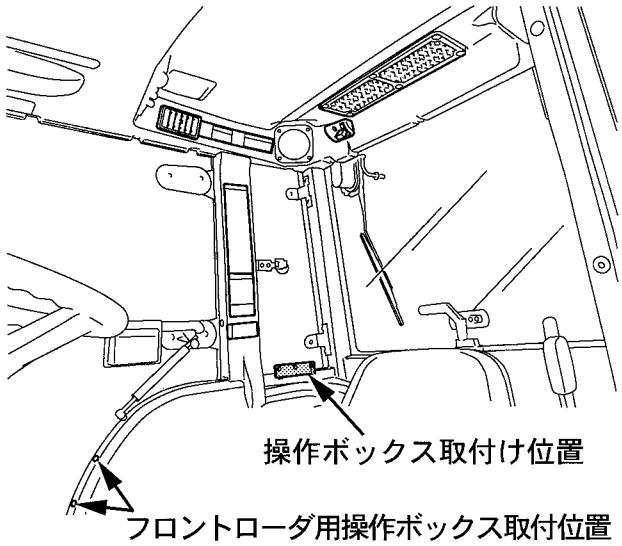
1. 上部を手前に引出して使用します。
2. 清掃するときは，(A)部を押し下げて，手前に引出すと外れます。

インプルメントの装着

■インプルメント用操作ボックスの組付け

ゴムキャップに穴又は切り込みを開け，インプルメント用操作コード・油圧ホースなどを安全キャブ室内に導入してください。





トラクタの簡単な手入れと処置

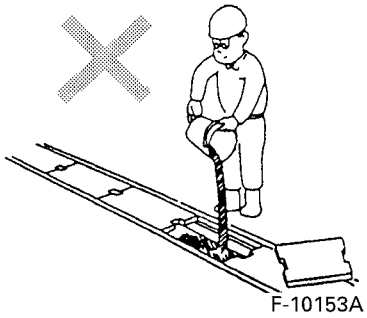
注 意

給油及び点検整備するときは
1.トラクタを平たんな広い場所に置き
2.作業機を降ろし
3.駐車ブレーキをかけ
4.エンジンを止め
5.キーを抜き，安全を確認してから行なってください。

そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃油処理について

1. 抜取った廃油は廃油処理業者へ依頼し，処理してください。
2. 廃油を溝や空地などに絶対に捨てないでください。



定期点検箇所一覧表

〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕
次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	項目＼時期		アワーメータ表示時間																それ以降	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
1	内気フィルタの詰まり	清掃				○				○				○				○	200時間ごと	15
2	外気フィルタの詰まり	清掃				○				○				○				○	200時間ごと	16
3	コンデンサの詰まり	清掃				○				○				○				○	200時間ごと	16
4	エアコンベルトの張り	調整				○				○				○				○	200時間ごと	17
5	ヒータ配管，ホース	点検																	1年ごと	17
6	エアコン配管，ホース	点検																	1年ごと	17
7	各部への注油	—																	必要に応じて	18
8	ウオッシャ液	補充																	必要に応じて	18
9	冷媒（ガス）量	点検																	必要に応じて	18

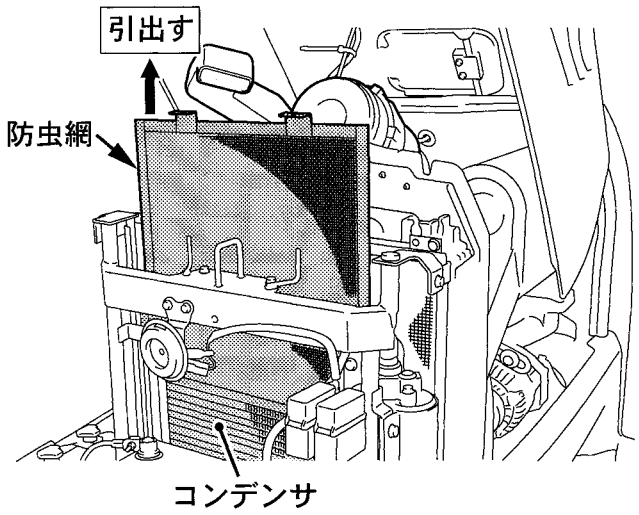
日常点検

■コンデンサ用防虫網の清掃

エアコン仕様では，ラジエータと同様にコンデンサの前にも防虫網があります。
防虫網を引出して，掃除してください。

重　要

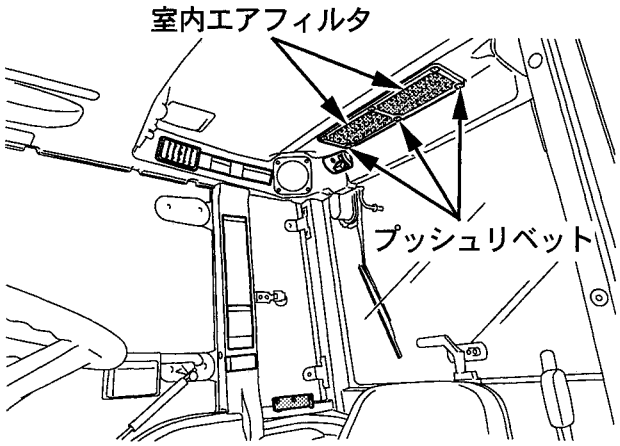
＊防虫網は金属製ですので，バッテリの⊕端子に触れないように特に注意してください。



200時間ごとの点検・整備

■室内エアフィルタの清掃

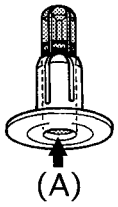
フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタの網目を損傷させないように清掃をしてください。



◆室内エアフィルタの取付け，取外し

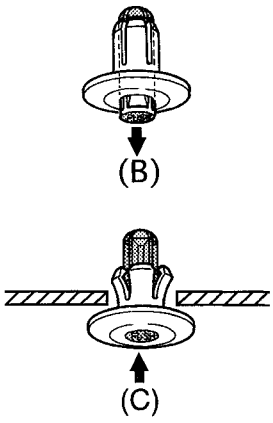
「外し方」

プッシュリベットの中央（A）部を少し押し，室内エアフィルタよりリベットを外します。



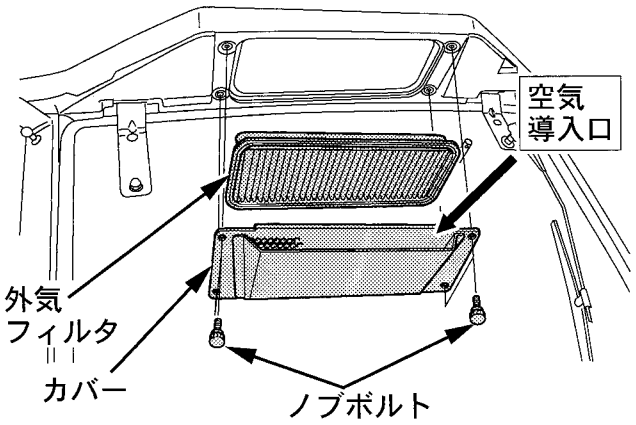
「取付け方」

プッシュリベットの中央（B）部を少し押出し，室内エアフィルタにプッシュリベットを差込んでから中央（C）部を押し固定します。



■外気フィルタ

ノブボルトを外し，カバーとフィルタをいっしょに外します。



補　足

＊カバーの空気導入口を外側に向けて組付けてください。

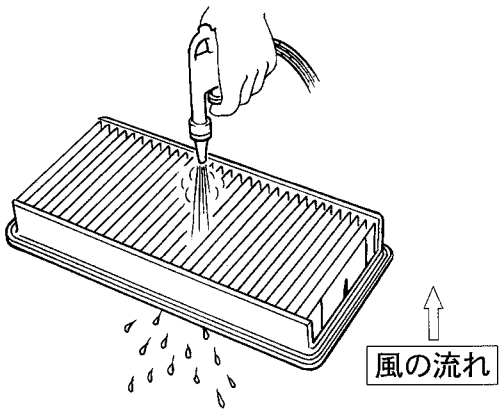
◆清掃法

「通常」

風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

重　要

＊エレメントをたたかないでください。
エレメントが変形すると，エアコンユニットにほこりが侵入し，エアコンを損傷する場合があります。



「汚れが著しいとき」

家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

重　要

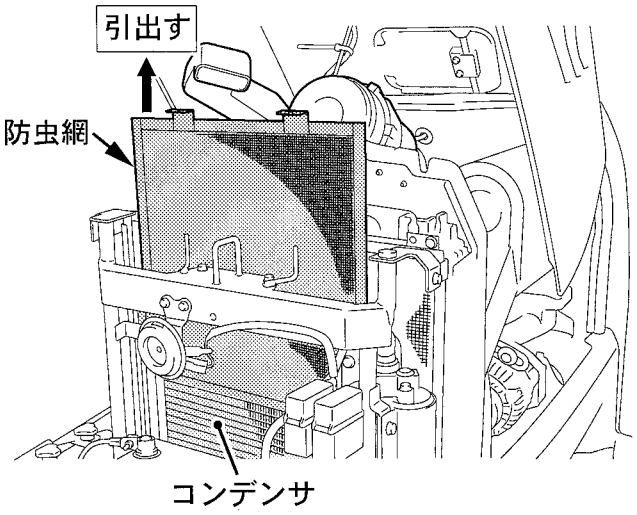
＊洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

■エアコンコンデンサの詰まり

注　意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

コンデンサフィンにゴミが詰まっていればエアブロー又は水道水などで取除いてください。



200時間ごとの点検・整備

■エアコンベルトの張り

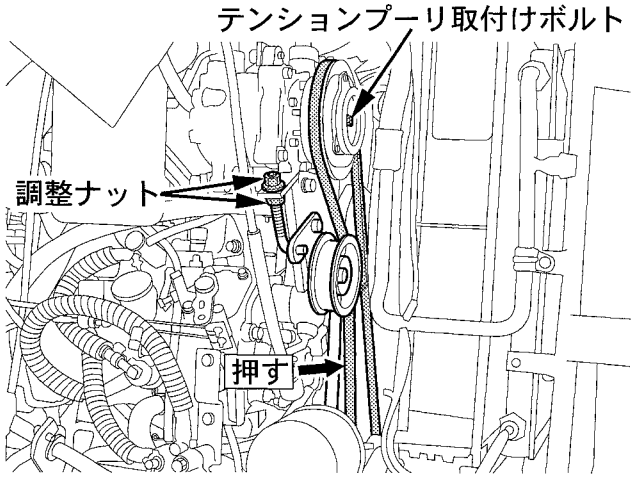
注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

◆調整方法

テンションプーリ取付けナットをゆるめ，調整ボルトで張ります。

適正張り強さ	ベルトの中央部を 指先で約69N (7kgf)の力で押さえて， 約11mmたわむ程度



1年ごとの点検・整備

■ヒータ配管，ウォータホースの点検

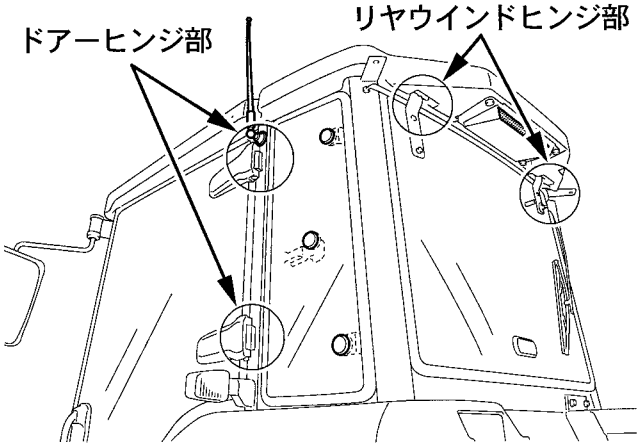
各配管及びウォータホースの損傷を点検してください。

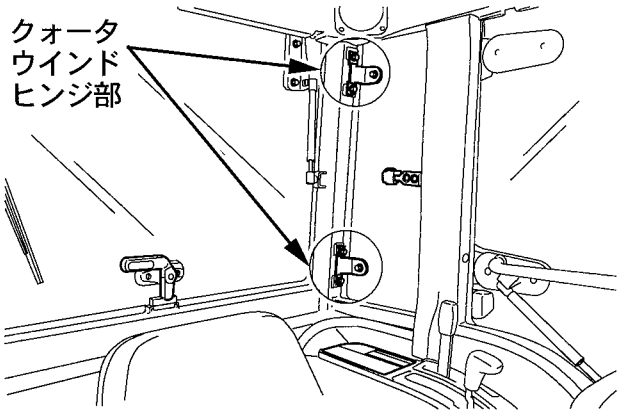
■エアコン配管，ホースの点検

各配管及びホースの損傷を点検してください。

必要に応じた点検・整備

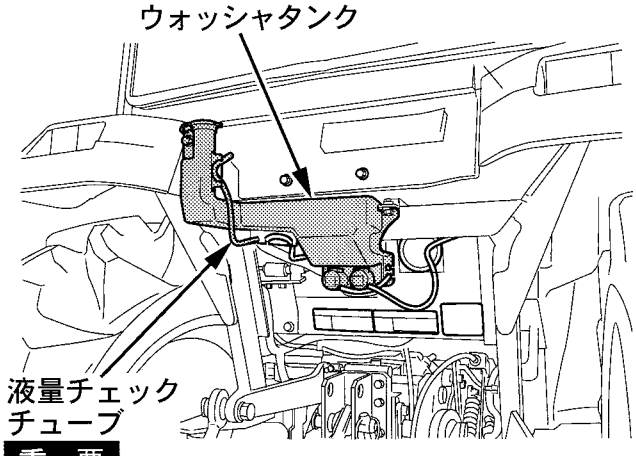
■オイルの注油





■ウォッシャ液の補充

自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。



重　要

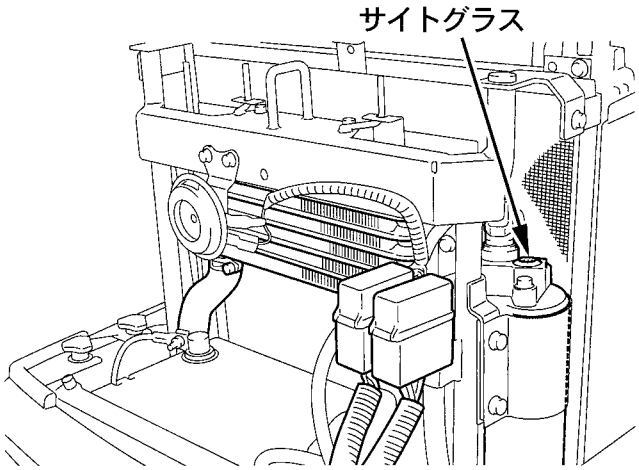
＊凍結を避けるため，清水のみの使用はしないでください。
＊空回しはポンプを損傷させる原因となりますので空運転をしないでください。
＊ウオッシャノズルの詰まりを防ぐために，ゴミが入らないようにしてください。

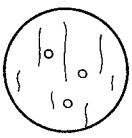
■冷媒(ガス)量の点検

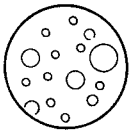
冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。
下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，購入先で点検及び充てんをしてもらってください。

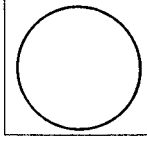
◆点検方法

1.エアコンを以下の条件で運転します。
＊エンジン回転数　　：約1500rpm
＊温度コントロールレバー：最強冷位置(左端)
＊ファンスイッチ　　：最強風(HI)
＊エアコンスイッチ　　：ON
2.サイトグラスにより，冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認する。




適正…流れの中にほとんど気泡が含まれていない。


不足…流れの中に気泡が含まれている。
(気泡が連続的に通過)


なし…無色透明

C219F037

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　ー

ご購入日	型式名	区分

車台番号（製造番号）	エンジン型式　　エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目1番1号
機械東日本事務所：電(048)862-1121　〒338-0832　さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所：電(072)241-8506　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
機械福岡事務所：電(092)606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘1丁目7番3号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部：電(072)241-8092　〒590-0823　堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目1番1号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162　〒981-1221　名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部：電(048)862-1588　〒338-0832　さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263　〒950-0992　新潟市上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121　〒924-0038　松任市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111　〒491-0031　一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部：電(072)241-8551　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011　〒683-0804　米子市米原7丁目1番1号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市宍甘275番地
高松営業技術推進部：電(087)874-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部：電(018)845-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市桜区西堀5丁目2番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部：電(072)241-8550　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
中四国系統推進部：電(087)874-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部：電(092)606-3166　〒811-0213　福岡市東区和白丘1丁目7番3号

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862

品番　T2055-1940-1